

保育北九州

令和2年10月1日

発行 (一社)北九州市保育所連盟
〒805-0019
北九州市八幡東区中央2丁目1-1
(レインボープラザ5F)
電話(093)661-2153番

発行人 酒井光義
編集人 西敏昭

2020 201



光沢寺第二保育園 運動会より

「かけっこも、お遊戯も」

「みんなががんばってね。」

表紙	1
故藤岡佐規子先生を偲ぶ	2～10
故藤岡佐規子先生の経歴	11
編集後記	12

藤岡佐規子先生を偲んで 保育者魂を 次世代に伝える



(一社)北九州市保育所連盟

会長 酒井 光義

古いアルバムを久しぶりに出して
みました。母が整理したのですが、
あちらこちらが抜けていますし年次
が定かではありません。その中保育
園関係の写真には、現在の北九州市
保育所連盟の基盤を立ち上げ、組織
の結集に力を注がれた諸先生方の若
い頃のお姿が見受けられます。また、
当園が小倉北区に所在することか
ら、それは旧小倉市(小倉北区・南区
になる前)の保育園関係者が中心と
なります。肩を組みご一緒に撮った
ものが多く、あふれん笑顔は、いかに
親密な関係で結ばれていたかが手に
取るように理解できます。そんな中
の一枚に少しインテリなメガネをか
けた女性が見られます。「光沢寺の佐
規子先生よ、聡明でとても熱心な方」
と語っていた母を思い出します。

昭和10年、祖父の代からのお付き
合い、ともに幼児教育、保育に思いを
寄せ歩んできた同士だといえます。
そして母も嫁いで以来保母として共
に歩んできたといっておりました。
そんなお付き合いである以上私が幼

少のころから必然的に呼ばれてい
た「……くん」はいつまでたっても
「……くん」でありました。そう呼ん
でいただいていたことが嬉しくも
あり恥ずかしくもあり、しかし今で
は懐かしい言葉となつてしまいまし
た。

大学卒業後、寺と保育園の業務に
従事することとなり、親しくお付き
合いただいたいた当時の連盟会長
の西村法昭先生、保母会会長の藤岡
佐規子先生にご挨拶に伺ったことが
ありました。「よう帰った」の言葉に
添えて佐規子先生より「お母さんを
助けてね」とのささやき。これまでを
よく知っているからこそその言葉とし
て受け止めさせていただいたことで
した。

その当時の両先生は、絶妙の取り
合わせで、北九州の保育団体をいか
に結集し組織力を高めていくか、ま
た保育の質の向上のためにいかにあ
るべきかを念頭に、行政との関係性
の在り方も培いながら孤軍奮闘さ
れ、今日の北九州市保育所連盟や保
育士会の礎、そして「北九州の保育」
を築いてこられてきたことは言うま
でもありません。またそれにとどま
らず、各々全国の保育団体の長とし

ても活躍され「保育は北九州から」と
胸を張って言えるようになったこと
でもあります。

そんな先生方を誇りに思いなが
ら、がむしゃらについていった青年
時代が思い出されますが、「……もい
いけど、学びが必要。保育はもろん
理論武装しなければだめよ」と苦言
を呈していただいていたのが佐規子
先生でした。その言葉は今でも胸に
刻まれています。が、なかなか思うよ
うにはできていない毎日が悔やまれ
ます。

そんな私が、縁あつて現在保育所
連盟の会長を務めさせていただいて
います。力量不足は十分承知の上で
すが、他役員の方々の大きな支えが
あつてこそ務めさせていただいてい
ることに感謝です。

そしてここでも私を心配し見守つ
てくださる方がいました。体調を崩
された状態であつたとしても、「あな
たの話はしっかりと聞かなくては」
と駆け付けてくださる藤岡佐規子先
生の姿があつたのです。嬉しい限り
でした。

また時折、これまでの連盟の歩み、
行政とのやり取りなど、伝えておか
なければとの思いからでしょうか、



藤岡佐規子先生を偲び保育者魂を次世代に伝える会
(令和2年8月28日)

いつもの熱弁も出ることでした。話し終えた私を見た時の笑顔、私に語り終わった時の笑顔、それは親密な関係で結ばれていたころの連盟時代の希望あふれん笑顔にも似たものだったようにも思われ、先生の優しさの表現だとも感じています。全

ての笑顔に応えることはできませんが、今の私に残された役割は、次に続く者に対して、次のことを伝えていくことだと確信します。

「保育は人としての根っこを育てる大切な営み」

生涯をそのことを伝えることに努

められ、保育に携わる者のあり方は「視点はいつとも子どもたち」が最大の基本、原点であることを示していただいたことに感謝です。そしてこれは改めて継承していかなければならないことであり、伝えていくことが連盟の務めであるとおお誓いするものです。

藤岡佐規子先生を偲びつ

つ、改めて「お疲れ様でした。そしてありがとうございました」を最後の言葉といたします。

北九州市長

北橋 健治

藤岡佐規子先生のご逝去に、謹んで哀悼の意を表します。ご親族の皆様、ご友人の皆様、保育関係者の皆様に心からお悔やみ申し上げます。

また、「藤岡佐規子先生を偲び、保育者魂を次世代に伝える会」の開催にあたり、ご尽力いただいた北九州市保育所連盟酒井会長をはじめ、関係の皆様深く感謝申し上げます。

藤岡先生は、戦時期に京都の地で保育を学ばれた後、光沢寺保育園に入職され、その後、70年以上もの長きにわたり、北九州市のみならず、日本の保育の発展に全身全霊を注がれました。先生の志は、今も多くの保育関係者に受け継がれています。

また、北九州市政においては、本市の基本構想を考える市民会議委員にご就任いただくなど、保育への情熱を市政に注ぎ込むとともに、この街の市民の幸せを願ってご活躍いただきました。

藤岡先生に思いを馳せると、最も印象深く思い浮かんでくるのは、保育士の配置を要望されたときのお姿です。当時、既に80歳を超えられていたと思いますが、先生は、保育の現場に立つ一保育士の視点から、まだ自分の思いを上手く言葉にできない子どもの心の安定や安全のために、国の基準を超え、1歳児5人に1人の保育士を配置すべきと強く訴えられました。私は、先生の情熱に心を動かされ、また、先生の先見の明に導かれ、配置の決断をしました。これは今も、全国から先進的な取組として評価いただいています。

それ以外の場面でも、保育に関することとなると、日頃のおだやかなお人柄から一転して、子ども達の幸せを願いながら、経験に裏付けられた深い見識を熱く語るお姿に感銘を受けたことを思い出します。

また、藤岡先生は、北九州市保育所連盟の広報紙「保育北九州」に、保育の本質とは何かを伝える「視点」を寄稿され、次世代の保育関係者の育成に一石を投じられました。このように、たゆまぬ研鑽を重ね、将来の保育を思う先生のお姿は皆様の心に残り続けるでしょう。



福岡佐規子先生を偲び保育者魂を次世代に伝える会
(令和2年8月28日)

我々も、「子育て日本一を実感できるまち」の実現に向け、北九州市の未来を担う子どもたちのために、保育環境の更なる充実・強化に取り組んでいます。

いつまでも、思いは尽きませんが、ご冥福をお祈り申し上げ、藤岡先生へのお礼とお別れの言葉といたします。

前北九州市長

末吉興一

西村法昭先生、藤岡佐規子先生
両先生の創業の志（保育の源流）

昭和38年2月に、五市の対等合併という前例がない形で「北九州市」が発足し、時を同じくして、西村法昭先生や藤岡佐規子先生方のご努力により、「北九州市保育所連絡協議会」が、昭和42年には「各区保母会連絡協議会」が発足し、現在の「北九州市保育所連盟」「北九州市保育士会」へと成長してまいりました。

両先生は、視点を常に「子どもたちの健やかな成長」に持ち保育を行っていくことを志し、子どもを守り育てるために、旧五市の保育者が一致団結し、国や市行政に対しても臆することなく物申していくという強い気迫がありました。

両先生の掲げた松明は北九州市の保育の原点！ 出発点です。

私も、昭和62年に市政を担当し、西村法昭先生とのお付き合いは短いものでしたが「ふるさと北九州」を住みよい豊かなまちにするため、藤岡先

生からは、時に厳しく、時にやさしいお言葉を頂戴しました。

こうした、先生方が掲げる「北九州の保育（養護と教育）」の話を在職中随分とお伺いしたものでした。藤岡先生は、「保育は人格形成にとって大切なものである」「人間の一生を樹に例えると、幹は学校教育で、保育は根っこを育てるものである。根っこが腐れば大樹も枯れてしまう」と、よく言われていたことを思い出します。

いまや「北九州市保育所連盟」は、国の内外からの評価も高く「北九州市の型の見えない文化遺産」となりました。

藤岡先生が、70余年の長きにわたる保育者生活の中で、保育士の研修体系を構築され、保育士の資質向上に多大な貢献をなされました。この研修体系は広く全国の模範となるものであり高く評価されています。先生が育てられた北九州市の保育は「型の見えない文化遺産」としてこれからも末永く保育士たちに伝え続けられていくことでしょう。

それでも？ 40年の時は流れている。多くの人の尽力・協力・努力がしのばれる。

さて、これからは？ どうトレンドを考えます？ 将来・未来・予測は？

私が市政を担当した時から33年がたちました。保育施策の変動は目まぐるしいものがあります。平成27年に「子ども・子育て支援新制度」が策定され、保育所と幼稚園の機能や財源の一元化や幼児教育・保育の無償化など展開されていく中で、藤岡先生は「このままで子どもたちの保育は守られるのか」と心配されたことでしょう。

保育制度・施策を進める中で、子ども達の人格形成・心の成長を支える保育者の尽力・努力が大切であることは言うまでもありません。ここに、偉大な指導者を失った悲しみは尽きませんが、藤岡佐規子先生が築き上げられた「保育（幼児教育）」を北九州市の保育者はこれからも引き継いでいけることでしょう。

安心してお休みください。そしてありがとうございます。



(公社)北九州市私立保育園連盟

会長 岡村 信久

北九州市のみならず、我が国の保育の礎を築いてこられた藤岡佐規子先生が本年6月25日、91歳のご生涯を閉じられました。

コロナ禍のため、ご遺族の強いご希望により6月27日に近親者のみによる密葬が執り行われました。このため、8月28日に(二社)北九州市保育所連盟(公社)北九州市私立保育園連盟、北九州市保育士会の保育三団体主催による「藤岡佐規子先生を偲び、保育者魂を次世代に伝える会」を開催させて頂きました。

コロナ禍の残暑厳しい中でのご案内となり、心苦しい思いもありましたが、当日は270名余りの有縁の方々にご臨席をいただくことができました。主催者として誠に有難く、この紙面をお借りして衷心よりお礼申し上げます。なお、北橋健治市長は公務のため偲ぶ会に出席できないとのこと、開会前にご来場のうえ、献花をしてくださいました。北橋市長は「子育て日本一を実感できるまちづくり」の達成のため様々な市の保育



北九州市保育所連盟創立50周年記念式典・祝賀会
(平成25年1月18日)

施策との協働など、藤岡先生のご功績や的確なご提言に対する感謝の思いを自らお伝えにこられたのではと拝察し、大変感激いたしました。同時に改めて藤岡先生の偉大さを認識した次第です。偉大と言え、北九州市保育所連盟の歴代会長で全国組織の保育団体の頂点に立たれた偉大な指導者が3人おられます。その方々は、全国私立保育園連盟の会長を務められた今は亡き西村法昭、西村良樹両先生父子であり、もう御一方が全国保育士会の会長を務められた藤

岡佐規子先生であります。藤岡先生は、昭和から平成の長きに亘り、保育を実践する立場から献身的に西村法昭、西村良樹両会長を支えられ、北九州市の保育と連盟組織の充実発展に多大なる貢献を果たされました。西村法昭先生が他界された後、発行された保育北九州第69号に寄稿された藤岡先生の追悼文で私の心に残った記述が二つあります。そのひとつは、藤岡先生のご自宅に毎朝7時にかかる電話は大抵法昭先生からで、保育問題に対する確認、相談の電話だったとのエピソードです。後に西村良樹先生が北九州市保育所連盟や全国私立保育園連盟会長を務められている当時、私は良樹先生の法人職員として勤務しており、時々良樹先生のご自宅で晩酌のお供をさせて頂いた機会がありました。晩酌はいつも夕方6時には始まるのですが、まさに宴もたけなわの7時頃に鳴る電話の主は決まって藤岡先生でした。電話の内容は保育問題や連盟の問題に関することのようにでした。連盟組織を率いる偉大なる保育の先達はこのように普段から意思疎通を心掛け、「保育は北九州から」の心意気、保育者魂をもって一枚岩と言われる強固

でぶれない北九州の保育組織を築いてこられたのだと感慨深く受け止めています。もう一つの記述は、法昭先生が福祉の転換期には原点に立ち帰ることが必要だと常々説かれており、「温故知新」の言葉を座右の銘にされておられたことです。保育園では現在、新型コロナウイルスに対応するため、保育園の新しい日常の構築に懸命に取り組んでいます。コロナ禍にあつて、これまでの保育で変えるべきものは何か、守るべきものは何かを考える時、あるいは今後保育界が新たな岐路に立つとき、正に温故知新の思いから藤岡先生の教え「不易と流行」を顧みれば、必ずや先生の教えが正しい選択、判断をするための確かな道標となることと確信しています。北九州市私立保育園連盟会長として藤岡先生を偲ぶ時、永年に亘る藤岡先生のご功績とご労苦に対し心からなる感謝の念と共に、先生の教え、保育者魂を継承していくことを矜持として、北九州の保育と連盟の発展のために精一杯職責を果たして参る所存です。改めて藤岡先生の偉大なるご功績に対し深甚なる敬意と謝意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

北九州市保育士会

会長 北野久美

【保育者の魂を継承するものとして】

体調が思わしくないとお聞きしていただけない、竹内浩二先生にご容態をお伺いしつつ、一目でもお会いしたいと願っていました。しかし、このコロナ禍の中では、ご家族でさえ面会がままならない中、ご回復をお祈りしていた折に入ってきたのが、計報。哀しさとか寂しさでは言い表せないほどの喪失感でした。まさに、「巨星墜つ」……。

しかし同時に、長期間まさに病と闘われ、最期まで保育のことを語っていたといわれる先生の保育者魂は保育するものに継承され、脈々と息づいたまま、子どもたちにお返ししなくてはとの想いも一層強く致しました。

ご本人とご家族の強い希望での家族葬に、酒井先生、岡村先生と参列させていただきましたが、笑顔で、今にもあの美しいソプラノが聞こえてくるような優しいまなざしの遺影を拝見しながら、これまでの厳しく

も愛情のある教えに感謝し、病以上にずっとずっと保育や保育士の為に闘ってくださった信念は次世代に伝えなくてはいけないとも思いました。

【保育士の専門性の確立のために】

北九州市でのご活躍や行政とのかわり、そして藤岡先生が信念とされた、子どもの健全育成と、女性の社会進出の担い手であることと、人間の根っこを醸成する事、さらに保育士の社会的地位の向上!! といったことは市内の保育者は周知のことと思います。

ここでは組織の長としての、全国的なご活動について少し触れたいと思います。

昭和45年、当時は一つの組織だった福岡県の保母会会長となられ、昭和48年には全国保母会の副委員長を6年、昭和58年からは政令市としての位置づけで、北九州市の会長に。さらに昭和60年からは全国保母会の副会長を12年務められたのち、平成11年には全国保育士会会長となりました。

私も全国組織でお役割を頂いている今、長きにわたり全国組織をけん引された先生のご功績のすばらしさはもちろんのこと、その間のご活動



藤岡佐規子先生を偲び保育者魂を次世代に伝える会
(令和2年8月28日)

に、圧倒されます。

数々の成果物の中でも、特に藤岡先生が代表編集者となって昭和62年に発刊された、「全国保母会主任保母ハンドブック」はそのポリシーもさることながら、I..保母制度の変革を目指してでは昭和51年からずっと訴え続けている保育者の専門職化について触れられ、II..主任保母の現状では、大規模な実態調査とその確かな考察を、そして主任保母をどう位置づけるのかといった投げかけや主任への期待、保育制度の問い直しにまで言及しているその組み立てのすばらしさに、感動で全身が

震える感じがいたします。

藤岡先生は全国組織では保母制度研究委員会に所属されている期間が長かったのですが、現場発の研究にとどまらず、免許法への提言までされています。真の意味で活動母体であった「保母会」が全社協の一つの種別である全国保育協議会の内部組織としての位置づけで、発言一つにも全保協の動きを気にしながらといった姿に嘆かれ、「久美ちゃん! 全国の組織はどうなってるの? 活動の主体として、保育者の地位向上や制度への提言にも力を入れなきゃ!」

「現場の実践を研究に結び付けてこそその専門職よ!」と時折カツを入れてくださいました。そのたびに、これまでの藤岡先生のお取り組みを学び、私もできるだけの発信はしてきたつもりではありますが、まだまだ足元にも及びません。主任保母の位置づけを!!と願って企画された主任保母特別講座(現:主任保育士・主幹保育教諭特別講座、現在33期継続中)の一期生としての自分が、情けなくなりません。

昭和51年から数年間かけて研究し提案した「保育士法案」「保育士免許」も、叶っておらず、保育者の専門職化

もその専門性の確立もまだまだ道半ばです。

北九州市の保育者が、当たり前のように日中にいろいろな研修を受講できるのも、各区の保育士会で潤沢な会議等ができるのも、偉大な先輩方のおかげで、その中心としてお力を発揮されたのが藤岡先生だったという事を思うと、それが

全国的なスタンダードにならなければ専門性を発揮することもできないと改めて思います。

保育の施策が大人の都合でどう移り変わろうと、経済優先志向の中で子どもへの心使いがな

い社会の中でも、子どもの育ちに寄り添うものとして信念はブレてはいけ

のお導きに感謝しつつ、これを次世代にどう伝えるか、どう残すのかと、大きな宿題もいただきました。

藤岡先生：深い学びを、その姿勢を学ばせていただきありがとうございます。改めて心から、心から、お礼申し上げます。



第46回北九州市保育研修大会
(平成20年11月3日)

藤岡佐規子先生との

思い出

藤岡佐規子先生の功績

私は、北九州市保育所連盟には、二人の巨人が居られたとおもいます。一人は西村法昭会長でありもう一人が藤岡佐規子先生であります。法昭先生は、佐規子先生に全幅の信頼を寄せられ保育に関することは全て任せられて居られた様です。この信頼の下で佐規子先生は、自分の持っている保育の考え方を何一つ修正されることなく連盟の活動の中に反映される事が出来たのではないのでしょうか。

次に先生の業績を箇条書きに記します。

(注) 一から三までは法昭先生と佐規子先生が市に要請され実現されたものとわ

- 一、北九州市保育研修所の設立
- 二、研修代替え保育士制度の導入
- 三、ゼロ歳児受け持ち定数改善六対二を三対一に
- 四、毎年恒例の保育研修大会には中央で活躍される一流講師を招聘し保育士会全員に聴講の機会を与えられる
- 五、出前育児教室を毎年開き正しい保育認識を保護者に教育される
- 六、組織を使って園児の成長発達の記録を取り研究して四冊の本にまとめられる
- 七、連盟の機関紙に「視点」という欄を設けて担当される

(公社)北九州市私立保育園連盟

(一社)北九州市保育所連盟

顧問 西村賢了



光沢寺四園周年記念祝賀会
(平成27年2月28日)

故藤岡佐規子先生を偲んで

亡き藤岡先生の思い出を書き始め、改めて過ぎ去りし昔を振りかえり、感慨入りのものがあります。藤岡先生と私は、漫才コンビと自称・自認する二人でした。知的で保育にかけては、先達者的存在の先生は、何事にも几帳面で、筋を通す人でした。私は一寸のんびり！大陸的なところと義理人情を大切にする面があります。

先生が「私達 性格が違うからコン

ビが組めるのよ。同じ様な性格の二人だったらコンビを組めないし、組んでも長続きしないと思う」と話していました。二人の意見が違うことは再三ありましたが、話し合い、妥協点を見つけ、解決していたのです。

先生は、「視点はいつも子ども達」を理念に、ゆるぎない保育観を持っていました。

子どもの発達保障と女性解放の担い手という二つの機能を果たす事を中心課題として、研修・研究の充実と保育者の専門職化を目指して長年に亘りご尽力頂きました。保育条件改善には、客観的データが欠かせないと課題発見や調査・研究に取り組み、そのことの楽しさ、面白さにも気づかせてくれたのです。北九州の保育者魂、心意気を育ててくださったと言えます。

私たちの合言葉「私たちは、子どもの心を育て、命を守ることを第一義としています」

北九州市保育所連盟・北九州市私立保育園連盟・北九州市保育士会の更なるご発展・ご栄光を信じております。

(二社)北九州市保育所連盟

顧問 北野一恵

藤岡佐規子先生を偲びて

北九州市の保育を語るとき藤岡佐規子先生のお名前が出ないことはなと言われる程、全国にその名を轟かせた先生が逝かれた。将に「巨星墜つ」の感がある。

先生の保育にかける思いは、「視点はいつも子どもたち」と題しての講話で、保育とは木に例えれば「木の根っ子が保育、初等教育は幹、大学は枝葉」と位置づけられた。根っ子が立派に育たなければ木は枯れる。根っ子を育てる保育が肝要と言われたことが昨日のように甦る。

いつ頃のことであつたか、その時も定かに記憶していないが、国に対しての要望とその内容に関してであつたろうことは記憶の片隅に残っている。

高邁な先生にとって、不肖の浅薄な思いと行動に苛立ちを覚えたのであろう。保育の生き字引のような先生から厳しいまなざしで諄諄(じゅんじゅん)と諭されたことは、忘れようとしても忘れられない一つの大きな思い出である。

先生としては「私保連の役職に就

任したからには責任をもって行動すること、そして遊びにかまけず少しは保育についても勉強することが肝要」と言いたかつたのではないかと現在(いま)にして気づかされた。

その時を振り返れば先生に対して心ない一言や対応が先生の怒りを誘発したのでは……と今更ながら反省の念しきりである。しかし乍らその時に論されたその一言は、苦い思い出ではあるが何にも代えがたい説諭であつたと自戒している。

現在(いま)にして思えば、もう少し叱られてでも先生の目指された「保育観のそのもの」を学ばせて頂いておけば……と思いつつ、ただただ先生のご功績を偲ぶばかりである。

(公社)北九州市私立保育園連盟

(二社)北九州市保育所連盟

顧問 橋原淳信

「指定席」

藤岡佐規子先生のご逝去に、謹んで哀悼の意を表し、昭正先生をはじめご親族の皆様、保育関係者の皆様に心からお悔やみ申し上げます。

藤岡先生には、公私にわたり大変



前会長 平沢茂

(一社)北九州市保育所連盟

ご指導とご鞭撻をいただきましたこと、いつになっても忘れ得ぬ感懐と喜びの出来事でございました。

私の心に焼き付いていることがあります。それは「指定席」です。

毎月開催される北九州市私立保育園連盟施設長会の折り、先に逝かれた西村良樹先生は、前に向かつて右から2列目の一番前の席、そしてその後ろ5番目の席が、昭正・佐規子先生ご夫妻の「指定席」でありました。

それらの席に先生方が座しておられるのを拝見するにつけ、保育に携わり大切な役をいただいている者にとって、安心と心強さをいただき大きく力強い柱が存在するとの思いを強くいただいたことでした。

藤岡佐規子先生、ありがとうございます。いましました、ありがとうございます。これからも北九州市の保育に携われる皆様方のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、お別れの言葉とさせていただきます。

別 離

北九州市保育士会々長であった藤岡佐規子先生の下で、私は八幡東区保育士会長として、昭和57年から十三年間、保育士会の仕事を一緒にさせて頂きました。

振り返ってみますと、私が保育者として、就職した二十代の頃、同じ年齢の藤岡先生も一人の保育士として光沢寺保育園で働いておられました。その当時は、お互いに挨拶を交わす程度のお付き合いでしたが、そんな存在から急激に身近な存在となったのは、先生が入院されてからです。病院が、ふたば保育園のすぐ近くでしたので、保育の合間を見てお見舞いというより、昔なじみの思いで、話し相手として病室を訪れました。最初の頃は、先生との会話も弾んでいましたが、次第に病室内を歩くことも少なくなり、会話も途絶えがちになってきました。

今年の二月になると、自分の最期を見つめるような表情で「みんな逝くんよね」と語りかけられました。今まで思い詰めていた言葉を初めて口にされた安堵にも似た口調でした。

私も「そうよ。みんな逝くんだからね」と悲しみを堪えて同調したのです。すると「あんたが足をさすってくれた手が冷たくて気持ち良かったよ」と微笑みながらぽつんと言ってくれました。それが私たち二人の最後の会話です。

二月下旬以降は新型コロナウイルス感染防止のため、面会もままならなくなり、病状を気づかいながらの日々でしたが、先生との最期のひと時を一緒に過ごすことができた事、社会的地位も見栄もお世辞もない二人きりの時が与えられたことは尊い思い出となりました。

ご冥福を祈りながら。

ふたば保育園 園長 松田トシ子



お泊り保育 (もりのいえ)
(平成 18 年 10 月 20 日)

旅の思い出

私の保育士人生約50年の中で、これまで、藤岡佐規子先生と海外や国内も含めご一緒に研修や旅行に行ったことが度々あります。

あるとき研修終了後のホテルで藤岡先生と同室になりました。私はどのようにに振舞えばよいか戸惑いと心配でドキドキしていました。ホテルの部屋に入って荷物を置くとすぐ、先生が浴槽にお湯を入れて、お先にどうぞとすすめて下さり、入浴後はお茶を召し上がれと言われる。なんと手際のよいことかと圧倒されたと同時に私の心配は払拭されました。そして、21時にはご主人に電話をされます。「私はどこへ行っても21時には必ず主人に電話するのよ」、そうなんだ。私のような凡人には真似のできないことです。

また、就寝前には着ていた洋服を丁寧にあたんで、皺のないきれいな薄葉紙に包まれたのを見ると、今購入したばかりの洋服がそこに置いてあるようでした。プリーツスカートはクリップで一つ一つ留められるとお聞きしたことがあります。

先生は人との関わりを大切にされるだけではなく、物も大切にされていたのです。「これ30年前の洋服よ」と時々言われていたことが納得できました。

コロナ禍で家族ですらお見舞に行けない状況が続き、病床で一人寂しく過ごされたことを思うと、もっと面会に行っていたら、もっとお話を聞いておればと悔やまれます。藤岡先生お世話になりました。どうか安らかに眠り下さい。

北九州市保育士会 参与 中村 尋子

十年先を歩かれた藤岡先生

藤岡先生のお考えや実践は、よく10年先を見越したものであると言われました。高齢化が加速し始めた頃、予算捻出のために子ども予算が削減される事があり、「高齢者対策は少子化問題とセット。子どもがいなくなつては国の未来はない。子どもが一番よ、その予算こそ何よりも手当てすべき問題なの、黒田さん」と、私に仰った言葉が強く印象に残っています。やっと今、国は少子化問題に本気で取り組み始め、その度にあの時

の言葉を思い出します。

早くから三歳未満児保育や障害児保育の大切さに着目し研究され、その成果は障害児加配保育士や、0歳児3対1の保育士配置に繋がっています。職業的感覚に加え、理論に科学的な根拠を求められたことも、先生の先駆的な点だと思います。

保育界は不出世の貴重な人材を失ってしまいました。いつも先生ならどう考えどう実践されるだろうと考えることが私の原点であり、これからもそうあり続けるだろうと思っています。

北九州市保育士会 副会長 黒田 玲子



第9回卒園式 光沢寺第二保育園
(平成26年3月15日)

コラム

もっと保育士に世の光を！

今、日本の保育界には子どものため、保護者のため、政治に本当に大事なことを堂々と言い、簡単に譲らないという気風を持った人があまりいなくなりました。そのためでしょうか、長時間労働社会を下支えすることが保育園のミSSIONのような風潮が広がっていて、保育士は必死で社会を一番底辺で支えています。

もっと保育士に世の光を！ 藤岡先生がお元気なら、きっとそう言って、官僚、政治家を説得に回っているでしょう。

藤岡先生は、保育士が名実ともに世に歓迎される職業になるために、深い怒りと希望を胸に率直に行動した稀有の保育士だと思います。

時代は変わります。でも変えてはいけないものがあるのだ、と藤岡先生はあちらの世界から語り続けておられると思います。

先生の御意志を、微力ではありますが継いで生きようと思います。安らかに眠りください。

臨床育児・保育研究所 所長 汐見 稔幸

故藤岡佐規子先生の経歴

生年月日 昭和4年3月24日（出生地：東京都）
ご逝去 令和2年6月25日18時11分（享年92歳（満91歳））

略歴

昭和21年3月 京都女子専門学校・保姆科卒業
昭和21年4月 光沢寺保育園入職
平成17年4月 光沢寺第二保育園 園長就任
平成27年4月 光沢寺第二保育園 副園長就任
平成29年3月 光沢寺第二保育園 退園

受賞歴

昭和52年2月18日 福岡県知事表彰（社会福祉功労賞）
昭和55年10月14日 厚生労働大臣表彰（社会福祉功労賞）
昭和60年10月18日 全国保育協議会会長顕彰（保育功労）
平成2年12月18日 黄綬褒章

保育関係の主な役職

北九州市保育士会会長（初代）
・北九州市保育士会名誉会長
・九社連保育士会名誉会長
社会福祉法人全国社会福祉協議会全国保育士会会長
北九州市保育所連盟副会長
北九州市保育所連盟会長
・北九州市保育所連盟顧問

昭和49年11月～平成15年3月
平成15年4月～
平成15年4月～
平成11年5月～平成13年5月
昭和46年4月～平成15年3月
平成15年4月～平成21年3月
平成21年4月～

その他

非常勤講師
・福岡県社会保育短期大学
・福岡県立大学
・福岡県立九州歯科大学
・学校法人西南女学院短期大学
公的機関での様々な協議会・会議における委員・協議委員等

藤岡佐規子先生の執筆活動

仲間達への定期便………（単著）西部読売開発出版部
三歳未満児保育―理論と実践―………（共著）ミネルヴァ書房
感性を育てる保育実践―領域環境と感性―………（共著）ミネルヴァ書房
感性を育てる保育実践―領域人間関係と感性―………（共著）ミネルヴァ書房
子どもと環境………（共著）蒼丘書林
育てよういきいきつ子………（共著）蒼丘書林
保育北九州「視点」継続執筆………北九州市保育所連盟機関紙
視点―視点はいつも、子どもたち―
（北九州市保育所連盟50周年記念）………（有）サンライト
スリーアローズフロント記事「継続執筆」………福岡県保育協議会保育士会機関紙
ぶりずむフロント記事「継続執筆」………北九州市保育士会機関紙
厚生福祉フロント記事「継続執筆」………時事通信
保育園の窓辺から………（単著）蒼丘書林
保育園で働くあなたに
いっしょに考えませんか？受容と共感の保育………（単著）蒼丘書林
視点はいつも、子どもたち
保育園の窓辺からPART2………（単著）蒼丘書林
子どもの現在（いま）によりそって
保育園の窓辺からPART3………（単著）蒼丘書林





JAIC光沢寺第二保育園訪問(平成17年)



夏まつり 光沢寺第二保育園
(平成17年8月27日)



4園合同お茶会 光沢寺第二保育園
(平成26年3月3日)



作品展 光沢寺第二保育園
(平成22年2月6日)



出前育児教室 子どもの館
(平成26年9月6日)

～藤岡先生との思い出～

編集後記

——「保育一筋」の人生——

2020年6月25日91歳をもって、乳幼児保育と女性の地位向上の先駆者として生涯を捧げた藤岡佐規子先生が人生を閉じられました。

7月に発刊された「保育北九州」200号記念号のメモリアルメッセージの原稿執筆をお願いしたのが最後の言葉になりました。ここに感謝申し上げますと共に厚くお礼を申し上げます。

先生とは前園長のご縁で親しく接させて戴きました。その後、門司支部長の役職に就き、役員会等で日々お会いする事が多く、会長としての組織体制づくりや会議での見識が深く議題も予定通りに運ぶ手腕に感銘したものでした。

保育まつり・出前育児教室が門司支部担当の折、先生に講演依頼をと前保育士会長と元副会長が依頼に出掛けたものの断られ、支部長の私に泣きついてきました。一緒に手土産のシュークリームを持参し3人で保育園にお願いに上がり講演を承諾戴きました。後から聞いた話ですが、西支部長にシュークリームで買収されたと冗談交じりに話していたと聞き、今となっては懐かしく思い出されます。

出前育児教室の日は台風が近づきつつあり、天気が心配でしたが講演も盛会裏に終わり7支部での最後の出前育児教室での講演になりました。

藤岡先生は、「保育北九州200号」メモリアルメッセージでは、私たちにまさにメッセージというべき言葉を残してくれました。当初から「人間の根っこを育てる保育」が最も大切であることを訴えてきました。人間の根っこである乳幼児期の「保育の質」が重要視され、「保育の質」を確保する豊かな人間性と専門的知識・技術を持つ保育士の温かい存在がいかに大切であるかを主張して参りましたと締めくくっています。

「保育北九州201号」は保育の発展向上に多大な貢献を戴いた、藤岡佐規子先生を偲び特別号とさせて戴きました。ここにお忙しい中、関係各位、諸先輩の先生方には「保育北九州200号記念号」に続き原稿執筆を戴きました事、感謝申し上げ御礼の言葉といたします。

「保育北九州」編集長 西 敏昭